

平成14年10月25日

水産庁漁場資源課  
独立行政法人水産総合研究センター  
西海区水産研究所

## 平成14年度第1回東シナ海漁況海況予報

- 2003年3月までの期間の東シナ海から日本海西部の海域における海況と漁況について、別表の水産関係機関が検討し、独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所がとりまとめた結果 -

### 今後の見通し(2003年3月までの期間)

#### 海況

- (1) 鹿児島南方海域の黒潮は、12月頃までは「屋久島付近での変動」、それ以降は「屋久島から屋久島南での変動」で経過する。
- (2) 九州西方の対馬暖流水は、「西寄り」で経過する。
- (3) 東シナ海から九州・日本海西部沿岸域にかけての表層水温は、「平年並み～やや高め」で経過する。

#### 漁況(来遊量予測)

- (1) マアジ：0歳魚は前年を下回り、1歳魚は前年を上回る。
- (2) マサバ、ゴマサバ：前年並み。
- (3) マイワシ：極めて少ない。
- (4) ウルメイワシ：前年を下回り平年並み。
- (5) カタクチイワシ：前年を上回り平年を下回る。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/gk14/14gkindex.htm>)に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下の通りです。  
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉・狭間  
住所：〒100-8907 東京都千代田区霞が関 1-2-1  
電話：03-3502-8111 (内線 7376) 03-3501-5098 (直通)  
ファックス：03-3592-0759  
電子メール：[toru\\_hazama@nm.maff.go.jp](mailto:toru_hazama@nm.maff.go.jp)  
水産総合研究センター西海区水産研究所企画連絡室  
住所：〒850-0951 長崎市国分町 3-30  
電話：095-833-2662 ファックス：095-821-4494  
電子メール：[kiren@snf.affrc.go.jp](mailto:kiren@snf.affrc.go.jp)  
(海況担当：中川倫寿 095-833-2683；漁況担当：檜山義明 095-833-2684)

## 参加機関

山口県水産研究センター	沖縄県水産試験場
福岡県水産海洋技術センター	(社)漁業情報サービスセンター
佐賀県玄海水産振興センター	水産庁漁場資源課
長崎県総合水産試験場	独立行政法人水産総合研究センター 西海区水産研究所
熊本県水産研究センター	
鹿児島県水産試験場	

# 平成14年度第1回東シナ海海況予報

## 1. 今後の見通し(2002年10月～2003年3月)

### (1) 海流および水系分布

・薩南海域における黒潮北縁域の位置は、前半は「屋久島付近での変動」、後半は「離岸～屋久島付近での変動」で経過する。  
・九州西方における対馬暖流水の分布は、「西偏」で経過する。

### (2) 表層水温

・前半には、山口県沿岸・沖合と対馬東水道、壱岐水道、五島西沖、五島灘、天草西沖、西薩・甕沖、薩南沿岸、黒潮域、沖縄島周辺海域、大陸棚上では「平年並み」で経過する。  
・後半には、山口県沿岸・沖合と壱岐水道では「やや高め」、対馬東水道と五島西沖、五島灘、天草西沖、沖縄島周辺海域では「平年並み」、薩南沿岸と黒潮域、大陸棚上では「平年並み～やや高め」で経過する。

## 2. 経過(2002年4月～2002年9月)

### 1. 大陸棚上

#### (1) 水系

中国大陸沿岸水は4・9月は「西偏」、5・7・8月は「東偏」で経過。

#### (2) 海面水温

- 4月：北部「平年並み」、南部「やや高め」。
- 5月：北部「やや高め」、南部「はなはだ高め」。
- 6月：北部「かなり高め」、南部「やや高め」。
- 7月：北部、南部とも「平年並み」。
- 8月：北部「平年並み」、南部「やや高め」。
- 9月：北部「やや高め」、南部「平年並み」。

### 2. 黒潮流域

#### (1) 海流・水系

沖縄北西方の黒潮の流路は、春季・夏季ともに「平年並み」。流量は、春季は「平年並み」、夏季は「やや少なめ」で経過。

薩南海域における黒潮北縁域は、4月上旬は「離岸」、4月中旬～5月は「接岸」、6～8月は「離岸」、9月上・中旬は概ね「接岸」で経過。9月下旬は「離岸」となった。

#### (2) 海面水温

- 4月：「やや高め」
- 5月：「かなり高め」。
- 6～9月：「平年並み」。

### 3. 対馬暖流域・沿岸域

#### (1) 海流・水系

対馬暖流水の分布位置は、4・5月と7・8月には「東偏」で経過。

## (2)表層水温

山口県沿岸 沖合 :4月は沿岸域で「かなり高め」、沖合域は「平年並み」、5月は「平年並み」、6月は「かなり高め」、7~9月は「平年並み」。

対馬東水道 :4月は「かなり高め」、5月は「やや低め」、6月は「はなはだ高め」、7・8月は「平年並み」、9月は「やや低め」。

壱岐水道,五島西沖 :4月は「やや高め」、6月は「かなり高め」、8月は壱岐水道では「平年並み」、五島西沖では「やや低め」。

五島灘 :4月は「平年並み」、6月は「はなはだ高め」、8月は「平年並み」。

天草西沖 :4月は「平年並み」、5・6月は「はなはだ高め」、8月は「やや高め」。

西薩 甑沖,薩南沿岸 :4月は「平年並み」、5月は「はなはだ高め」、8月は「平年並み」。

薩南沖合 :4月は「やや高め」、5・8月は「平年並み」。

沖縄島南東 :4月は「かなり低め」、6月は「平年並み」、8月は「やや低め」。

## (3)表層塩分

山口県沿岸 沖合 :4月は「やや~かなり低め」、5月は「はなはだ低め」、6月は「平年並み~やや低め」、7月は「平年並み」、8月は「やや~かなり高め」、9月は「やや高め」。

対馬東水道 :4・5月は「はなはだ低め」、6・7月は「平年並み」、8月は「かなり高め」、9月は「やや高め」。

壱岐水道,五島西沖,五島灘 :4月は「やや~かなり低め」、6月は「平年並み~やや高め」、8月は「やや~かなり高め」。

天草西沖 :4・5月は「平年並み」、6・8月は「やや高め」。

西薩 甑沖 :4・5月は「平年並み」、8月は「やや高め」。

薩南沿岸,沖合 :4・5・8月は「平年並み」。

沖縄島南東 :4月は「平年並み」、6月は「やや高め」、8月は「平年並み」。

## 3.現況(2002年10月)

### (1)大陸棚上

海面水温は北部では「やや高め」、南部では「平年並み」。

### (2)黒潮流域

薩南海域の黒潮北縁域は「離岸」。海面水温は「やや高め」。

### (3)対馬暖流域

海面水温は「やや高め」。

(註)引用符「」で囲んで表した平年比較の水温・塩分の高低の程度は以下のとおり

「はなはだ」 : 約22年に1回程度の出現確率

「かなり」 : 約7年に1回程度の出現確率

「やや」 : 約3年に1回程度の出現確率

「平年並み」 : 約2年に1回程度の出現確率

# 東シナ海～日本海西南域あじ・さば・いわし長期漁況予報

## 今後の見通し(2002年11月～2003年3月)

対象海域：東シナ海～日本海西南海域

対象漁業：まき網、定置網、その他

対象魚群：0歳魚(2002年級群)、1歳魚(2001年級群)、2歳魚(2000年級群)。魚の大きさは、あじ・さばは尾叉長、いわしは被鱗体長で表示。

### 1. マアジ

(1) 来遊量：0歳魚は前年を下回り、1歳魚は前年を上回る。

(2) 漁期・漁場：沖合域の漁況は前年を上回り、沿岸域の漁況は前年・平年を下回る。

(3) 魚体：10～19cmの0歳魚(豆・ゼンゴ銘柄)及び19～24cmの1歳魚(小銘柄)が主に、24cm以上の2歳魚以上(中・大銘柄)も漁獲される。

### 2. マサバ

(1) 来遊量：前年並み。

(2) 漁期・漁場：沖合域の漁況は前年並みで、沿岸域の漁況は北部海域(山口県～佐賀県)では前年・平年を下回り、南部海域(長崎県～鹿児島県)では前年を上回り平年を下回る。

(3) 魚体：15～25cmの0歳魚(豆・小銘柄)が主に漁獲される。

### 3. ゴマサバ

(1) 来遊量：前年並み。

(2) 漁期・漁場：沖合域の漁況は前年を下回り、沿岸域の漁況は前年・平年を上回る。

(3) 魚体：20～30cmの0歳魚(豆・小銘柄)が主に漁獲される。

### 4. マイワシ

(1) 来遊量：極めて少ない。

(2) 漁期・漁場：まとまった漁場は形成されず、散発的に沿岸域で漁獲される。

(3) 魚体：15cm程度の0歳魚(中羽銘柄)が主に漁獲される。

### 5. ウルメイワシ

(1) 来遊量：前年を下回り平年並み。

(2) 漁期・漁場：漁期前半を主体に、長崎県以南の沿岸域が漁場となる。

(3) 魚体：15～25cmの0・1歳魚(中羽・大羽銘柄)が主に漁獲される。

### 6. カタクチイワシ

(1) 来遊量：前年を上回り平年を下回る。

(2) 漁期・漁場：漁期は前半に集中する。

(3) 魚体：漁期前半は3～6cmの0歳魚(カエリ・小羽銘柄)が主に、後半は6～10cmの0歳魚(小羽・中羽銘柄)が主に漁獲される。

注：「前年」は2001年11月～2002年3月。「平年」は過去5年の平均値。

## 漁況の経過（2002年4月～8月）および見通しについての説明

### 1. 資源状態

#### （1）マアジ対馬暖流系群

対馬暖流域（東シナ海、九州北・西岸域、日本海）に生息するマアジの資源量は、1970年代後半に低水準にあったが、1980～1990年代前半に増加し、1993～1998年に高水準を維持した後、1999年以降はそれよりやや低い水準にある。それに伴って、対馬暖流域におけるマアジ漁獲量は、1980～1990年代は増加傾向を示し、1993～1998年には約20万トンを維持したが、2000年は15万トン、2001年は13万トンと減少した。

#### （2）マサバ対馬暖流系群

対馬暖流域に生息するマサバの資源量は、1977～1990年に変動しながら減少を続けた。1991～1996年には資源量は増加傾向にあったが、1997年から減少傾向に転じた。対馬暖流域におけるマサバの漁獲量は、1970年代後半には27～30万トンであったがその後減少し、1990～1992年には13～15万トンと大きく落ち込んだ。1993年以降漁獲量は増加傾向を示し、1996年には40万トンに達したが、1997年には21万トンに大きく減少し、2000年は85千トン、2001年は74千トンと減少傾向は続いている。

#### （3）ゴマサバ東シナ海系群

東シナ海から日本海西部に分布するゴマサバの資源量は、1992～1996年に10万トン程度であったが、1997～1999年に増加して23万トンに達した。2000年は17万トンに減少したが、2001年には20万トンに増加し、2001年には高い加入があったとみられる。2000年の漁獲量は46千トン、2001年は64千トンである。

#### （4）マイワシ対馬暖流系群

近年の対馬暖流域におけるマイワシの漁獲量は、1988年に最大となり、1991年まで100万トン以上を維持してきたものの、それ以後は漁獲量が年々減少している。2000年以後の対馬暖流域での漁獲量は1万トンを下回っていて、2000年は7千8百トン、2001年は1千4百トンであった。1999年に0歳魚を主体に漁況が一時上向いたものの、2000～2002年級群は極めて小さく、今後急速に資源が増加する可能性は低い。

#### （5）ウルメイワシ対馬暖流系群

対馬暖流域における近年のウルメイワシの漁獲量は、1993年に最大となった後に2000年の9千9百トンまで減少し続けた。2001年の漁獲量は2万5千トンに増加した。これは、2001年級群の加入がよかったためである。

#### （6）カタクチイワシ対馬暖流系群

近年の対馬暖流域におけるカタクチイワシの漁獲量は、1997年と2001年を除いて高水準にあった（2000年13万トン、2001年6万7千トン）。2001年の夏季までは、沿岸域を中心に好漁が続いていたものの、2001年秋季発生群、2002年春季発生群ともに発生量は多くない。そのため、資源量は急速に減少している。

### 2. 漁況の経過

2002年4～8月の大中型まき網漁業の漁場は、対馬沖、五島西沖および東シナ海中・南部が中心であった。この間の、大中型まき網漁船の九州主要港への水揚量は、全魚種合計4万7千トンで前年(2001

年4~8月)の4万6千トンと同程度であった。マアジは1万7千トンと前年(1万4千トン)を上回り、さば類は2万3千トンで前年(2万2千トン)と同程度であった。

山口県~鹿児島県地先における沿岸漁業の漁況は、表1のような経過であった。マアジの漁況は、福岡県で0・1歳魚が前年を上回ったものの、全体的には前年を下回った。漁獲の主体は、15~20cmの1歳魚と15cm以下の0歳魚であった。マサバは、山口県で前年を上回ったが、そのほかでは前年を下回った。漁獲の主体は30cm以下の0・1歳魚であった。ゴマサバは前年を下回った。漁期前半に中・大銘柄(30cm以上)が主に漁獲され、漁期後半には0歳魚とみられる27~30cmの小銘柄も漁獲された。マイワシはほとんど漁獲されなかった。漁獲の主体は、10~15cmの0歳魚で、一部が15~18cmの1歳魚であった。ウルメイワシは北部海域では前年を下回ったが、南部海域では前年並みか上回った。0歳魚と1歳魚が混じって漁獲物の体長は5~20cmであった。カタクチイワシは前年を下回る海域が多く平年並みであった。5cm以上の小羽・中羽・大羽銘柄が主体であり、2002年春季発生群のシラス・カエリ銘柄は不漁であった。

### 3. 今後の見通しの説明

#### (1) マアジ

例年、11~3月期には0歳魚(豆・ゼンゴ銘柄)が漁獲の主体で、1歳魚(小銘柄)2歳魚以上(中・大銘柄)も漁獲される。2001年級群は2000年級群より豊度が高いが、2002年級群の豊度は2001年級群より低いと考えられる。2002年級群について、2002年2~3月に行った仔魚分布調査では東シナ海南部海域に多量の分布が見られたが、4月調査時には稚魚の採集量が極めて少なく、その後の漁況も鹿児島県を除いて2001年に比べて低調に推移している。沖合域の漁況は1歳魚を主体に前年を上回るが、沿岸域の漁況はこれまでの漁況の経過から前年・平年を下回ると考えられる。

#### (2) マサバ

例年、11~3月期には0歳魚(豆・小銘柄)が漁獲の主体となる。マサバの漁獲量の大部分を占める大中型まき網による漁獲量は、4~8月に低水準だった前年を下回ったが、9月には2001年級群と見られる小銘柄と2002年級群と見られる豆銘柄の漁獲量が前年を上回った。長崎県においても7~8月の0歳魚の漁獲量は前年を上回っており、2002年級群の豊度は低水準だった2001年級群と同程度と考えられる。沿岸域でのこれまでの漁況の経過から、北部海域の分布量が少ないと判断される。

#### (3) ゴマサバ

例年、11~3月期には0歳魚(豆・小銘柄)が漁獲の主体となる。加入量の変動が大きいため、2002年級群の予測は難しいが、大中型まき網では7~8月にかけては0歳魚とみられる豆銘柄の漁獲量が前年を大幅に下回っており、2002年級群は2001年級群よりも豊度は低いとみられる。2001年級群の豊度は2000年級群より高く、1歳魚の来遊量は前年を上回ると考えられる。これまでの漁況の経過から、分布量は沖合に少なく、沿岸に多いと推察される。

#### (4) マイワシ

マイワシ資源は極めて低位であり、資源が増加するための産卵親魚量は十分ではない。2002年の産卵調査の結果(速報)でも、産卵量は極めて少なく、2002年級群も期待できない。このように資源が低位である現在では、まとまった漁場は形成されず、沿岸域で散発的に漁獲されるにとどまると考えられる。

(5) ウルメイワシ

南部海域を中心に好漁の海域が多く、体長から判断して2001年級群と2002年級群が混在している。したがって、ウルメイワシは2001年以後2年続けて加入がよいと判断される。2002年8・9月に西海水研が行なった計量魚探調査によると、ウルメイワシは前年ほどではないが現存量は多かった。したがって、来遊量は好漁であった前年をやや下回り、平年並みであろう。

漁場は、4～8月に好漁であった南部海域の沿岸域を主体に形成される可能性が高い。年級群の豊度から、0歳魚（中羽銘柄）および1歳魚（大羽銘柄）が主に漁獲されると考えられる。

(6) カタクチイワシ

2001年秋季発生群と2002年春季発生群の発生量が少なかったために、各県地先におけるカタクチイワシの漁獲量は軒並み前年を下回った。2002年8・9月に西海水研が行なった計量魚探調査およびニューストーンネットによるシラスの採集量では、産卵親魚は少ないものの、シラス量は2002年春季よりは多かった。したがって、極端な不漁となった前年の秋季発生群の発生量よりは、今年の方が多いと判断されるので、来遊量は前年を上回ると予測される。しかしながら、産卵親魚量が減少していることから、高水準であった近年の発生量は期待できないため、来遊量は平年を下回るだろう。

漁場は沿岸域を主体に形成される。なお、北部海域では1～3月まで休漁する海域が多い。11～3月期の前半は秋季発生群（カエリ・小羽銘柄）を主体に漁獲され、後半は小羽・中羽銘柄が主体となるだろう。

表1. 沿岸域の漁況経過（2002年4～8月、一部9月含む）

	マアジ	マサバ	ゴマサバ
山口	中型まき網での水揚げは前年比132.9%と前年を上回り、平年比86.5%と平年を下回った。棒受、すくい網では、マアジ当歳魚（ゼンゴ）が前年比1.2%、平年比2.6%とほとんど水揚げがなかった。	中型まき網では前年比154.2%、平年比120.5%であった。棒受・すくい網ではギリサバが水揚げされ前年比134.3%、平年比172.6%と好調であった。	
福岡	前年に比べ好漁、代表港まき網漁獲量は654トンで平年の6割程度。同じく棒受網は349トンで平年の1.4倍であった。銘柄はゼンゴ・マメがいずれも主体。まき網では大銘柄の漁獲が多かった。	代表港まき網の漁獲量は、81トン。平年の40%、前年の58%と少なかった。まき網、棒受網とも5・6月には大中の銘柄が主体で、7・8月はローソク等の銘柄が主体であった。	代表港まき網の漁獲量は、1トンで平年並みであった。
佐賀	漁獲量は前年・平年を上回った。前年比128.9%、平年比140.5%。	漁獲量は前年並みで、平年を大きく下回った。前年比101.7%、平年比39.7%。	
長崎	前年・平年に比して、漁獲は下回り、長崎魚市では、前年比56%、平年比69%、五島地区では前年比47%、平年比35%であった。	地域による差があるが、概ね前年・平年を下回った。長崎魚市では前年比43%、平年比24%であった。	



	マアジ	マサバ	ゴマサバ
熊本 牛深港	水揚量が 329.1 トンで平年比 49.8%、前年比 78.4%であった。	水揚量は 34.6 トンで平年比 10.3%、前年比 34.6%であった。	
鹿児島	4～6月は豆・小アジ(2001年級群)主体に、7月以降はアジ仔・豆アジ(2002年級群)主体に、4～5月は前年を上回る漁獲があり、期合計3,062トンの水揚げで、前年比98%、平年比68%。		4～6月は薩南海域で大・中ゴマサバ(1999年級群)主体に、7月以降は北薩海域では、小サバ(2002年級群)主体に、1,037トンの水揚げがあり、前年比40%、平年比18%。

	マイワシ	ウルメイワシ	カタクチイワシ
山口	棒受・すくい網で、ヒラゴ主体で前年比 811.8%、平年比 8.7%と引き続き漁獲量は少ない。	棒受・すくい網で中・小銘柄が水揚げされており、水揚量は前年比64.9%、平年比64.8%であった。小型まき網では平年比7.2%と低調であった。	棒受・すくい網で中・小、カエリ銘柄が9割以上を占めた。前年比 88.3% 平年比 104.4%と平年並みであった。
福岡	低調である。棒受網で 20トン程度漁獲された。	代表港棒受網の漁獲量は、0.5トンと平年に比べ著しく少ない。	夏生まれ群を対象に44トンの漁獲量であった。平年の60%。
佐賀	漁獲量は皆無に等しかった。	漁獲量は前年・平年を大きく下回った。前年比 40.2%、平年比 10.4%。	漁獲量は前年を大きく上回り、平年を下回った。前年比 160.8%、平年比 58.8%。
長崎	前年同様、漁獲は低調に推移した。	地域による差があるが、概ね前年を上回り、平年を下回った。五島地区では、前年比 884%、平年比59%であった。	地域により、差があるが、概ね前年を上回り、平年を下回った。橘湾地区では前年比101%、平年比 44%、北松地区では、前年比117%、平年比107%であった。
熊本 牛深港	水揚量は 2.1 トンで平年比 1.2%、前年比 28.9%であった。	水揚量は 797.3 トンで平年比 306.3%、前年比 125.3%であった。	水揚量は 299.3 トンで平年比 25.6%、前年比 8.6%と漁獲が減少した。
鹿児島	0.1 トンの水揚げで、期間中、漁場は形成されなかった。前年比 0.1%、平年比 0.0%。	小羽・中羽ウルメ(2002年級群)主体に1,124トンの水揚げで、前年比55%、平年比64%。	大羽が4月に枕崎沖でまとまって水揚げされたが、その後は全般的に低調な水揚げだった。期全体で490トンの水揚げがあり、前年比85%、平年比104%。

注：「前年」は2001年4～8月、「平年」は過去5年の平均値。